

新型コロナウイルス感染症対策挑戦支援資本強化計画書

令和 年 月 日

住 所

商号又は名称

代 表 者 名

ゴム印又は代表者の自署

1. 新型コロナウイルス感染症の影響及び今後の事業見通し及び課題、行動計画

《 新型コロナウイルス感染症の影響》	
・当社は〇〇温泉郷の温泉旅館です。観光地である〇〇からアクセスが良く、大手リアルエージェント経由で、観光バス等の団体客を集客してきました。	
・かかる中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、団体客の集客が困難となり、売上が減少しました。	
その後、新型コロナウイルス感染症が一服したものの、団体客の集客が回復せず、売上が伸び悩み、収益確保がままならない状況が続いています。	
《 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた今後の事業見通し（概要） 》	
・新型コロナウイルス感染症の影響に加え、人手不足が顕著で、設備が老朽化していることも踏まえ、顧客ターゲットの見直し、ローコスト運営の推進、これらにあった客室等のリニューアルによって、宿泊客数減ながらも、宿泊単価の引き上げ、原価・経費削減により、長期に亘る安定的な収益確保を目指していきます。	

今後の事業見通しに係る課題 〔 該当項目に○またはチェック 〕		課題項目を踏まえた行動計画
経営全般	経営戦略の策定	○その他（ターゲット見直し） 顧客ターゲットを高い宿泊単価が見込める個人客（マイクロツーリズムやワーケーションを含む）やインパウンドにシフトしていきます。 ○販路拡大 ・割安なネットエージェントの活用や自社ウェブサイトの見直し（宿泊予約、チャットボットの充実）、SNSの積極発信により、直接販売も含め、利益に直結する集客を目指していきます。 ○商品開発力 ・インパウンド需要の取り込みや高級感の打ち出しのため、布団からベッドへのシフトをはじめ和モダンにリニューアルしていきます。 ・客室露天風呂を導入し、需要減退の宴会場を個室食事処や貸切風呂・サウナ（新たな収入源の確保）にシフトしていきます。 ○原価・経費の削減 ・食事はボリューム重視から、食べきりサイズで、安価だが地元特産の食材をふんだんに使用し、盛り付けにこだわったメニューにシフトし、質の向上と原価低減を両立していきます。 ・フロント係等との接触を敬遠する傾向が顕著で、人件費の削減の観点から、宿泊者向けアプリによる非対面・非接触のチェックイン・アウトや、ベッド化による布団の上げ下げの廃止などを行っていきます。
	IT化の遅れ	
	事業の「選択と集中」	
	事業承継・後継者問題	
	その他（ ）	
売上・収益	営業力の強化	○設備投資計画の策定 ・客室等が老朽化し、集客が見込めず、修繕費も嵩むことから、リニューアルが必要です。予め中长期的な設備投資計画を策定したうえで、円滑な資金調達ができるよう、取引金融機関に事前説明を行っていきます。 ○資金繰り計画の策定 ・今回の公庫資本性ローンの導入により資本強化を行うことで、関係機関からの折り返し資金を円滑に調達し、資金繰り安定化を図っていきます。
	販路拡大	
	市場の競争激化	
	商品開発力	
	採算分析	
	原価・経費の削減	
人材・マネジメント	○ その他（ターゲット見直し）	○設備投資計画の策定 ・客室等が老朽化し、集客が見込めず、修繕費も嵩むことから、リニューアルが必要です。予め中长期的な設備投資計画を策定したうえで、円滑な資金調達ができるよう、取引金融機関に事前説明を行っていきます。 ○資金繰り計画の策定 ・今回の公庫資本性ローンの導入により資本強化を行うことで、関係機関からの折り返し資金を円滑に調達し、資金繰り安定化を図っていきます。
	管理者層の育成	
	必要な人材の採用	
	店舗マネジメントの向上	
	その他（ ）	
財務	○ 設備投資計画の策定	○設備投資計画の策定 ・客室等が老朽化し、集客が見込めず、修繕費も嵩むことから、リニューアルが必要です。予め中长期的な設備投資計画を策定したうえで、円滑な資金調達ができるよう、取引金融機関に事前説明を行っていきます。 ○資金繰り計画の策定 ・今回の公庫資本性ローンの導入により資本強化を行うことで、関係機関からの折り返し資金を円滑に調達し、資金繰り安定化を図っていきます。
	○ 資金繰り計画の策定	
	売掛金の回収期間長期化	
	在庫の削減	
	その他（ ）	
その他	（ ）	（ ）
	（ ）	

2. 業績推移と今後の計画

(単位：百万円)

	前期実績	今期見込	計画1期目	計画2期目	計画3期目	最終目標
	R 4 / 6 期	R 5 / 6 期	R 6 / 6 期	R 7 / 6 期	R 8 / 6 期	R 9 / 6 期
売上高	400.0	600.0	550.0	550.0	570.0	600.0
売上原価	100.0	156.0	130.0	120.0	130.0	140.0
売上高総利益	300.0	444.0	420.0	430.0	440.0	460.0
販売管理費	400.0	474.0	440.0	420.0	420.0	420.0
人件費	150.0	190.0	165.0	160.0	160.0	165.0
うち役員報酬	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
B減価償却費	65.0	75.0	80.0	70.0	65.0	60.0
営業利益	-100.0	-30.0	-20.0	10.0	20.0	40.0
営業外収益	10.0	12.0	13.0	10.0	10.0	10.0
営業外費用	10.0	12.0	10.0	10.0	10.0	10.0
C 経常利益	-100.0	-30.0	-23.0	10.0	20.0	40.0
特別損益	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
法人税等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
当期利益	-50.0	-30.0	-23.0	10.0	20.0	40.0
総資産	1,200.0	1,100.0	1,157.0	1,147.0	1,137.0	1,157.0
総負債	1,210.0	1,140.0	1,220.0	1,200.0	1,170.0	1,150.0
自己資本	-10.0	-40.0	-63.0	-53.0	-33.0	7.0

3. 借入金・社債の期末残高推移（※協調支援予定含む）

(単位：百万円)

	前期実績	今期見込	計画1期目	計画2期目	計画3期目	最終目標
	R 4 / 6 期	R 5 / 6 期	R 6 / 6 期	R 7 / 6 期	R 8 / 6 期	R 9 / 6 期
既存借入金	A 銀行	700.0	660.0	620.0	580.0	500.0
	B 信金	200.0	190.0	180.0	170.0	150.0
	日本公庫	150.0	140.0	130.0	120.0	100.0
小 計	1,050.0	990.0	930.0	870.0	810.0	750.0
社 債						
新規借入金			150.0	200.0	250.0	300.0
D 合 計	1,050.0	990.0	1,080.0	1,070.0	1,060.0	1,050.0

4. 必要資金と調達先（事業の継続・発展を図るための必要資金（※協調支援予定含む））

・客室等のリニューアル資金：日本公庫100百万円（R 6 / 3 月予定）	
・資金繰りのための折り返し資金：A 銀行50.0百万円（R 6 / 3 月予定）	
（A 銀行問合せ先）電話番号〇〇—〇〇—〇〇、ご担当（役席）〇〇融資課長	

（※）融資決定前及び融資後1年以内に状況確認のため公庫から記載された取引金融機関等に連絡させて頂くことがありますので、取引金融機関等に事前にご了解を得ておいてください。

- 認定経営革新等支援機関の支援を受けて本計画を策定した場合は、項番 1 ～ 4 は事業者が記入し、項番 5 ～ 7 は、認定経営革新等支援機関が記載してください。
なお、認定経営革新等支援機関の支援を受けない場合は、項番 5 ～ 7 の記載は不要です。

5. 認定経営革新等支援機関が実施した支援内容

時 期	支 援 内 容
	認定経営革新等支援機関の方に記載をお願いしてください。

6. 認定経営革新等支援機関の所見等

認定経営革新等支援機関の方に記載をお願いしてください。

7. 認定経営革新等支援機関連絡先

電話番号	
住所	認定経営革新等支援機関の方に記載をお願いしてください。
機関名	認定支援機関のゴム印
	担当者名

令和 年 月 日

事業計画書の作成にあたり、ご不明な点等がございましたら、
公庫職員がサポートいたしますので、お気軽にご相談ください。

ゴム印又は代表者の自
署

署

《 新型コロナウイルス感染症の影響 》

□ コロナ禍が自社に与えた影響について、可能な限り具体的に記載してください。

※ 初主ニシテノナル六感未症の彩昌と

□ 今後の取組み方針について、可能な限り具体的に記載してください。

課題項目を踏まえた行動計画

経営戦略の策定
IT化の遅れ
事業の「選択と集中」
事業承継・後継者問題
その他（ ）

営業力の強化
販路拡大
市場の競争激化
商品開発力
採算分析
原価・経費の削減
その他（ ）

管理者層の育成
必要な人材の採用
店舗マネジメントの向上
その他 ()

設備投資計画の策定
資金繰り計画の策定
売掛金の回収期間長期化
在庫の削減
その他（ ）

	()
	()

□ 記入例を参考に、自社の置かれた状況、これまでの取り組みの効果などを踏まえ、可能な限り“実現可能な”取り組みを具体的に記載してください。

(単位：百万円)

		前期実績	今期見込	計画1期目	計画2期目	計画3期目	最終目標
売上高							
売上原価							
Aうち減価償却費							
売上高総利益							
販売管理費							
人件費							
うち役員報酬							
B減価償却費							
営業利益							
営業外収入							
営業外費用							
C 経常利益							
特別損益							
法人税等							
当期利益							
総資産							
総負債							
自己資本							

(単位：百万円)

		前期実績	今期見込	計画1期目	計画2期目	計画3期目	最終目標
既存借入金		<div style="border: 2px dashed orange; padding: 10px;"> <p><記入のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 既存借入金の残高推移、新規借入の調達計画を記載してください。 <input type="checkbox"/> 新規借入金の欄には、各期末時点における新たな借入（今期見込以降）の合計残高を記載してください。 </div>					
小							
社							
新規借入							
合計							

① 必要資金と調達元（手元の現金、元金と国庫からの必要資金（本協調文換字は省略））

□ 必要資金と調達先について、可能な限り具体的に記載してください。

(※) 融資決定前及び融資後１年以内に状況確認のため公庫から記載された取引金融機関等に連絡させて頂くことがありますので、取引金融機関等に事前にご了解を得ておいてください。

- 認定経営革新等支援機関の支援を受けて本計画を策定した場合は、項番 1 ～ 4 は事業者が記入し、項番 5 ～ 7 は、認定経営革新等支援機関が記載してください。
なお、認定経営革新等支援機関の支援を受けない場合は、項番 5 ～ 7 の記載は不要です。

5. 認定経営革新等支援機関が実施した支援内容

時 期	支 援 内 容

6. 認定経営革新等支援機関の所見等

7. 認定経営革新等支援機関連絡先

電話番号		
住所		
機関名	認定支援機関のゴム印	担当者名